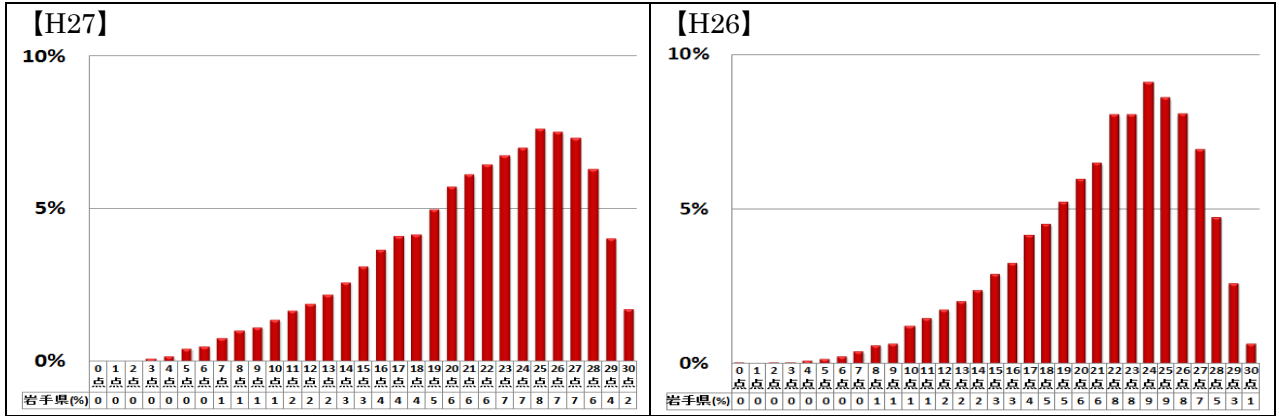


# 授業改善の手引 小学校第 5 学年社会

## 1 調査結果

### (1) 分布状況



○ 問題数は昨年度と同じで、正答数の最頻値は 25 問、平均正答数は 21 問です。昨年度の分布と比較して、山の位置はあまり変わっていませんが山の左側がやや高くなっています。また、正答数 22～26 問の層が減っています。  
(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

### (2) 領域等の正答率 (正答率の ( ) の数字は平成 26 年度のもの)

領域等	正答率	我が国の国土の様子 (5 問)	66% (65)
身近な地域 (3 問)	82% (81)	我が国の食料生産 (5 問)	56% (66)
地域の人々の生産と販売 (3 問)	72% (78)	観 点	
地域の人々の生活の変化 (2 問)	63% (95)	社会的な思考・判断・表現 (10 問)	61% (70)
災害及び事故の防止 (4 問)	79% (73)	観察・資料活用 of 技能 (9 問)	83% (67)
飲料水の確保や廃棄物の処理 (4 問)	79% (59)	社会的事象についての知識・理解 (11 問)	70% (77)
県の様子 (4 問)	73% (69)	活用 (4 問)	54% (65)

### (3) 結果概要

- 「観察・資料活用 of 技能」については、昨年度の正答率を 16 ポイント上回っています。地図や年表の活用等、基本的な技能の定着に改善が見られました。
- 「社会的な思考・判断・表現」の正答率は、昨年度の正答率を 9 ポイント下回っています。特に、社会的な事象の特色や社会的な事象の相互の関連を考察し説明する問題について課題が見られました。
- 「社会的な事象についての知識・理解」の正答率は、昨年度の正答率を 7 ポイント下回っています。特に、世界の主な海洋、主な国の名称と位置、日本の位置や国土の地形の概要等に課題が見られました。
- 活用に関する問題 (小問 6, 14, 19, 28) の正答率は 54% です。社会的な事象の相互の関連について考察し、条件に従って説明する問題、特に、記述で答える問題で課題が見られました。

### (4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マウスを表す)

小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較
● 1	76	▲14	● 7	71	▲15	○17	94	0	●19	47	▲14
○ 2	86	11	○11	81	15	○18	90	17	◇25	68	30

- ◇ 小問 2, 11, 17, 18, 25 は課題の改善傾向が見られましたが、特に、小問 25 は今後も注視が必要です。
- それ以外の小問については、依然として課題が継続している状況です。特に、小問 19 「県の様子」について考察する問題については、昨年度に引き続き課題が見られています。

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選 択 No. (%)							
大問	中問	小問	通し番号						1	2	3	4	5	6	0	
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答	
1	(1)	1		主な地図記号を理解している。	3・4年(1)ア	知	経年	76	76	17	3	1	2		0	
	(2)	2		学校の周りの様子について、方位の知識をもとに、地図を読み取ることができる。	3・4年(1)ア	技	経年	86	3	86	4	7	0		0	
	(3)	3		主な公共施設の働きを理解している。	3・4年(1)ア	知		84	3	84	10	3	0		0	
2	(1)	4		買い物地図から、買い物の様子について読み取ることができる。	3・4年(2)ア	技		86	3	8	86	3	0		0	
	(2)	5		販売の仕事における工夫と、消費者の願いとの関係について考えることができる。	3・4年(2)イ	思		64	64	11	8	17	0		0	
	(3)	6		販売に関する様々な仕事を比較し、長所を考えることができる。	3・4年(2)イ	思	活用	66	20	6	5	66	2		0	
3	(1)	7		暮らしにかかわる道具と、それらを使っていたころの暮らしの変化を理解している。	3・4年(5)ア	知	経年	71					28	71	0	
	(2)	8		地域の人々が受けついできた年中行事の特色を考えることができる。	3・4年(5)イ	思		54	12	18	14	54	1		1	
4	(1)	9		警察の働きについて理解している。	3・4年(4)ア	知		75					21	75	4	
	(2)	10		地域の人々が防犯に協力していることを示す資料を読み取ることができる。	3・4年(4)ア	技		88	4	2	5	88	0		0	
	(3)	11		火災発生時の関係諸機関の連携を示す図を読み取ることができる。	3・4年(4)イ	技	経年	81	6	11	81	2	0		0	
	(4)	12		地域社会の一員として、火災に備えてできることを、資料を読み取って考えることができる。	3・4年(4)ア	思		72	72	8	9	10	0		1	
5	(1)	①	13	地域の人口と廃棄物の量の変化を示した資料を読み取ることができる。	3・4年(3)ア	技		89	4	89	2	5	0		0	
	(1)	②	14	廃棄物を資源として活用している事例について考えることができる。	3・4年(3)イ	思	活用	77	9	4	9	77	0		0	
	(2)	①	15	飲料水の確保に関する資料から、学習を進める上で適切な課題を判断することができる。	3・4年(3)イ	思		73	73	4	9	13	0		0	
	(2)	②	16	浄水場についての資料を読み取ることができる。	3・4年(3)イ	技		78	78	3	15	4	0		0	
6	(1)	17		47都道府県の名称と位置を理解している。	3・4年(6)ア	知	経年	94					5	94	1	
	(2)	18		等高線についての理解をもとに、地形の様子を読み取ることができる。	3・4年(6)イ	技	経年	90	2	90	1	5	1		1	
	(3)	19		岩手県の産業の特色を、交通網の様子と関連付けて考え、説明することができる。	3・4年(6)イ	思	経年活用	47					44	47	9	
	(4)	20		伝統的な工業などの地場産業のさかんな地域の特色を理解している。	3・4年(6)ウ	知		61	15	9	61	13	1		1	
7	(1)	21		世界の主な海洋を理解している。	5年(1)ア	知		70					27	70	3	
	(2)	22		主な国の名称と位置を理解している。	5年(1)ア	知		62	62	22	10	4	1		1	
	(3)	23		日本の位置について理解している。	5年(1)ア	知		69	14	6	69	9	1		1	
	(4)	24		国土の地形の概要について理解している。	5年(1)イ	知		62	14	62	9	12	0		1	
	(5)	25		国土の気候の概要についての理解をもとに、気温と降水量のグラフを読み取ることができる。	5年(1)イ	技	経年	68	6	10	14	68	0		2	
8	(1)	26		都道府県別の米の生産量について、資料から読み取ることができる。	5年(2)イ	技		79	6	10	79	4	0		1	
	(2)	①	27	稲作に従事する人々による、生産の費用を減らすための工夫について、資料を読み取って考えることができる。	5年(2)ウ	思		66	16	6	9	66	0		2	
	(2)	②	28	稲作に従事する人々による、食の安全確保のための工夫について、消費者の需要にこたえることと関連させて考え、説明することができる。	5年(2)ウ	思	活用	23					70	23	6	
	(2)	③	29	稲作に従事する人々による、米の味や生産効率を高めるための工夫について理解している。	5年(2)ウ	知		44					41	44	15	
	(2)	④	30	稲作の問題点について、資料をもとに考えることができる。	5年(2)ウ	思		67					30	67	3	
全体正答率								71								

## 2 指導のポイント

### (1) 基礎的・基本的な知識の確実な定着を図りましょう。

#### ア 問題の概要

7	(1) 世界の主な海洋を理解している。	正答率 69.9%
	(2) 主な国の名称と位置を理解している。	正答率 61.1%
	(3) 日本の位置について理解している。	正答率 69.2%
	(4) 国土の地形の概要について理解している。	正答率 62.4%

#### イ 誤答分析

国の名称と位置について、大韓民国と中華人民共和国、あるいは、中華人民共和国とロシア連邦を逆に理解している児童が見られました。また、日本が南半球にあると解答した児童は19.5%、北アメリカ大陸の東側にあると解答した児童は14.8%でした。基本的な知識を問う問題ですが、授業の中で地図や地球儀を使って確かめたり、確かめたことを言い表したりする学習の機会が不足していることが考えられます。

#### ウ 指導上の留意点

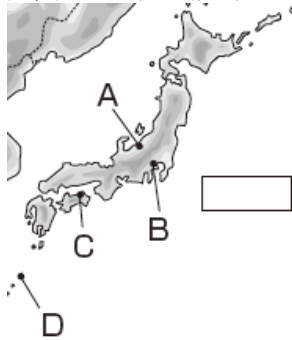
(ア) 地図帳や地球儀を積極的に活用して学習を展開しましょう。

- この単元の学習内容は、その後の学習の基礎となる部分でもありますので、地図帳や地球儀を活用して国名と位置を確かめて白地図にまとめたり、方位や距離などを調べたりする学習を充実させ理解を確かなものにしましょう。また、他の単元においても、児童自らが積極的に地図帳を活用し、地名や位置を調べることができるようにしましょう。
- 中学校社会科では、知識・理解に関する観点で課題が見られています。中学校への接続も考え、世界の「主な国」の指導では、例えば、近隣の諸国を含めユーラシア大陸やその周りに位置する国々から10か国程度、他の大陸やその周りに位置する国々からそれぞれ2か国程度選択して学習することが考えられます。47都道府県とともに、名称と位置について繰り返し指導し、定着を図りましょう。

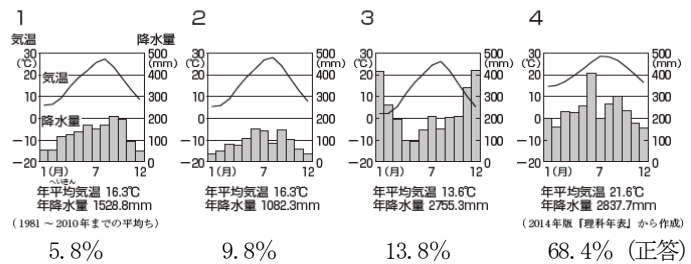
### (2) 問題の解決のために、資料を正しく読み取る技能を育みましょう。

#### ア 問題の概要

7 (5) 国土の気候の概要についての理解を基に、気温と降水量のグラフを読み取ることができる。



(5) 次の1～4のグラフは、地図中のA～Dのいずれかの地点の気温と降水量を表しています。Dの地点のグラフを1つ選び、その番号を書きましょう。



#### イ 誤答分析

降水量の多さだけに着目し、気温の変化について注目していないことが考えられます。誤答例では、日本海側の気候の雨温図を選んだ児童が多く見られました。問われている地域の気候の特色と関連付けながらグラフを適切に読み取り判断するという点で十分ではありませんでした。

#### ウ 指導上の留意点

(ア) 資料から分かったことを説明する授業場面を設定しましょう。

資料を正しく読み取る技能を育むには、児童が自力で資料を読み取り、資料から読み取ったことを根拠にして社会的事象について説明する学習活動を授業に取り入れていくことが大切です。問題を解決するためにどのような資料が必要なのかを児童自らが考えることも重視していきましょう。

(イ) 中学校での学習も視野に入れ、資料の見方や読み取り方を意図的・計画的に指導しましょう。

地図帳や地球儀、雨温図などのグラフや絵図、文書資料など、それぞれの資料の特徴に合わせて、必要な情報を読み取る技能を意図的・計画的に指導しましょう。さらに、中学校での学習を意識し、複数の資料を関連付けて読み取ることも取り入れていきましょう。

(3) 学習問題について、児童一人一人が予想する場面や調べたことを基に話し合う場面の発問を大切にしましょう。

ア 問題の概要

- |  |           |
|--|-----------|
| ⑥(3)岩手県の産業の特色を、交通網の様子と関連付けて考え、説明することができる。                              | 正答率 47.2% |
| ⑧(2)②稲作に従事する人々による、生産の費用を減らすための工夫について、消費者の需要にこたえることと関連させて考え、説明することができる。 | 正答率 23.1% |

イ 誤答分析

⑥(3)の問題については、交通網と工業団地の立地状況とを関連付けて考えることが不十分なため、「岩手県の西側（左側）」という記述が多く見られました。また、高速道路が南北に伸びている部分を県境と捉えた記述も見られました。工業団地の立地の理由を答える問題については、高速道路に工業団地が隣接している意味に着目することができず、「原料や製品が多くあるから」という記述が多く見られました。この問題は、今回の記述問題中最も無解答率が高く、条件に従って説明することを求めている問題に戸惑った様子が見られます。

⑧(2)②については、「かも」を水田に放すことが米づくりにとってどのようなよさがあるかを考えることができず、問題文中にある「害虫」「雑草」をそのまま引用する記述が多く見られました。しかし、「安全」という言葉を使って記述する問題については、消費者の立場に立って考え、正しく解答している児童が多く見られました。

ウ 指導上の留意点

(7) 学習問題について児童一人一人が予想する場面では、予想した事柄の根拠もノートに書かせたり発表させたりするようにしましょう。

学習問題について、児童が主体的に追究し思考を深めていくためには、予想する場面において児童一人一人に自分なりの予想をもたせることが大切です。また、その際、根拠を明らかにしながら予想をさせることが、社会的事象の特色や事象間の関連、社会的事象の意味を考察・説明する力を身に付けさせることにつながります。

例えば、第4学年「わたしたちの県の様子」の単元において、「岩手県で工業のさかんなところはどこに広がっているのだろう。」という学習問題を設定した場合、どのような場所に工業団地が立地しているかを予想させるとともに、そう考えた根拠も記述させましょう。予想をその根拠とともに発表させ、それらを整理することは、考える力や表現する力を育むだけでなく、児童が見通しをもってその後の学習活動をするにもつながります。

<ノートの記述例> ( )は予想の根拠

- ・高速道路や新幹線が通っている場所の近くに立っている。(働く人や原料が運びやすいから)
- ・内陸部(以前海の近くに行ったとき、平らな土地が少なく工場のような場所がない感じがしたから)

(4) 調べたことについて話し合う場面における発問を工夫しましょう。

学習問題について資料を基に自分で調べたあと、調べたことを全体で確かめ合う場面があります。その際、調べた事実を基に考えを深める発問の工夫をしましょう。具体的には、根拠を問う発問や、社会的事象の特色や事象間の関連、社会的事象の意味や意義を問う発問、児童の考えを広げたりつなげたりする発問などを大切にしていきたいと思います。

例えば、第5学年「米づくりのさかんな地域」の単元において、「米づくり農家は、おいしい米をつくるためにどのような工夫をしているのだろう。」という学習問題を設定して学習を進めた場合、調べた後の話し合いでは以下の発問の工夫をすることが考えられます。

C1 「〇〇さんは、農薬を減らす工夫をしていました。」

T 「〇〇さんはなぜそのような工夫をしているのでしょうか？」

(根拠を問い、社会的事象の意味を考えることができるようにするための発問)

C1 「消費者が健康によい米を食べたいと思っている人が多いと思ったからではないかと思います。」

C2 「消費者のおいしい米を食べたいという願いに応えるためではないかと思います。」

T 「C1、C2さんは消費者と関わらせて考えたようですが、みなさんはどう思いますか？」

(児童の意見を全体に広げることにより、一人一人の考えを深めようとする発問)